

平成29年度 果実輸出支援事業実績報告

株式会社ニューズ

事業概要

高機能吸着剤と光触媒技術の融合等による柑橘(みかん)の輸出における鮮度保持技術事業の実証

実施航路：松山港～基隆港

実施日程：11月10日・・・40'HCR×1台

12月1日・・・20'REF×1台

12月7日・・・20'REF×1台

12月21日・・・20'REF×1台

12月28日・・・40'HCR×1台

1月17日・・・20'REF×1台

1月24日・・・20'REF×1台

合計7台

実証方法：コンテナ内に光触媒技術と吸着剤を装着してエチレン濃度を低下させるとともに、微酸性電解水の散布と通気性のよいプラスチックコンテナの使用により腐敗の原因である雑菌の繁殖を防ぐ。

段ボールとプラスチックコンテナの品質比較 【11月10日出航分】



段ボールで輸送したものは、
1箱(10kg入)中5~6個の腐敗に対し、
コンテナ輸送分はほとんど腐敗が見られな
かった。
やはり段ボールの通気性の悪さが、
腐敗の原因のひとつだったのではないかと
思われる。



今期の総括と来期への課題

- ▶ 今期は、選果時に電解水を散布することで腐敗の原因となる菌を抑える取り組みを新しく実施した。昨年に比べて腐敗が減るであろうと期待していたが、結果としてはあまり良くなかった。
- ▶ 原因としては、ブラッシングをしながら電解水を散布したことで、電解水によって果皮がデリケートになっているところにブラッシングのブラシによる傷ができてしまい、その傷が腐敗の原因になったのではないかと思われる。
- ▶ また今期は、例年の段ボール箱による輸送に加えて、プラスチックコンテナによる輸送も実施した。やはり通気性のよいコンテナ輸送のほうが、腐敗も少なく品質も安定していた。しかし、後半外気が寒くなってからは、時間的な問題により、散布した電解水が完全に乾く前に出荷を行うことになってしまい、水分を吸収してくれる段ボールに比べて、プラスチックコンテナで輸送したほうが腐敗が多くなった。
- ▶ 以上の結果により、来期は電解水散布時のブラッシングは行わず、商品完成時に散布するのみとすること、そしてコンテナでの輸送の場合は、必ず自然乾燥させてから出荷することとする。
- ▶ また、当地方の温州みかんは基本的に年内出荷で終了する品種であるため、例年課題に挙がっている1月の出荷については、当面見合わせる方向で決定した。